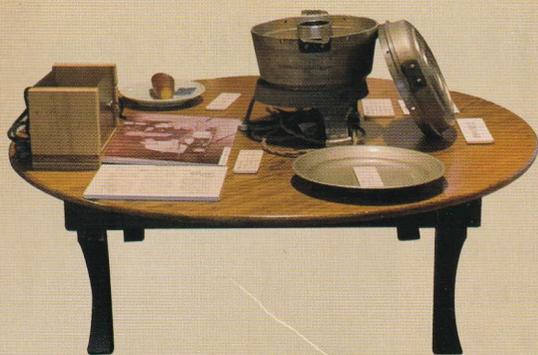


貧しくも心豊かな昭和の暮らし

関東大震災・学童疎開・横浜大空襲を体験した母と娘の物語



昭和の家事と家族の物語

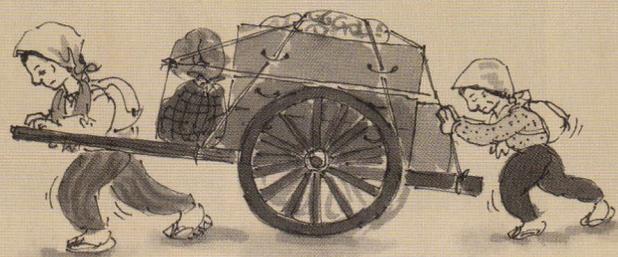
ス

ス

さん

ドキュメンタリー映画

86分



大塚敦監督作品

プロデューサー：村山英世・山内隆治 監督・撮影・編集：大塚 敦
音響監督：Mick 沢口 音楽：矢部優子・長谷川武尚 チェロ演奏：河元哲史 歌：JIBO 音響効果：細見浩三
ドローン撮影：カラーグレーディング：堀井威久磨 録音・照明：折笠啓輔・梶浦電司 イラスト・タイトルデザイン：高橋美江
語り：小林聡美 出演：小泉和子（昭和の暮らし博物館館長）

制作：記録映画保存センター 東京都千代田区九段南 4-6-13-702 TEL:03-3222-4249 URL:http://www.kirokueiga-hozon.jp

助成



文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

イラスト・タイトルデザイン：高橋美江 ポスターデザイン：川津かおり

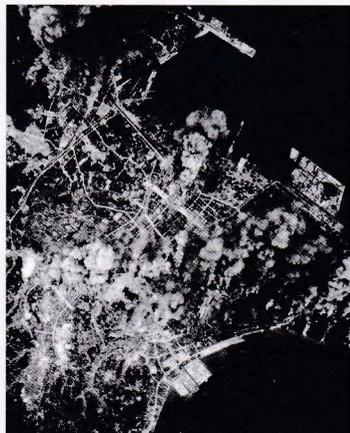
都内の住宅地の一角に戦後直後に建てられた小さな民家が今でも残っている。
 1950年代、ここで夫婦と子ども4人の6人家族がくらしていた。
 関東大震災、学童疎開、横浜大空襲を体験した一家の物語。

豊富な映像アーカイブを駆使して横浜大空襲を家族の視点から再構成する初めての試み

1945年3月10日の東京大空襲と比較するとあまり知られていないが、横浜大空襲もまた甚大な被害をもたらした無差別空襲だった。(飛来したB29機は東京大空襲の約2倍、投下焼夷弾も1.5倍)

戦中戦後に撮影された映画、ニュース映像、写真、小泉和子氏の証言に基いて描画されたイラストを再構成して空襲の悲劇に迫る。

防空訓練、食料難、学童疎開、建物疎開と続く苦難、小泉一家がどのように、焼夷弾と機銃掃射、燃えさかる炎のなかを逃げ惑い生き残ったのかを丹念に描いていく。



昭和20(1945)年5月29日未明、米第21爆撃機集団所属のB29編隊517機がマナリア基地を発進し、午前9時20分ころ横浜上空に達し、10時半ころまでの約1時間で、総数43万8,576個(2,569.6トン)の大量の焼夷弾を投下した。密集した木造家屋を焼き払うのに適したM69と呼ばれる集束焼夷弾攻撃により、中区・南区・西区・神奈川区を中心に、横浜の市街地は猛火につつまれた。この大空襲による被害は、直後の公式発表によれば、死者3,650人、重軽症者10,198人、行方不明309人、罹災者は311,218人とされる。大正12(1923)年の関東大震災から20年余りが過ぎ、ようやく復興した横浜の街は、再び灰燼に帰したのである。(横浜市史資料室HPより)

米空軍撮影 横浜市史資料室提供

娘が語る「大好きだったおかあさんの手仕事」 4K映像でよみがえる昭和の家事

昭和の30年代までふつうの家庭でおこなわれた家事を記録したフィルム映像を、鮮やかな4K映像でよみがえらせた。「着物をほどこく」「洗い張りをする」「夏掛け布団」「洗濯」「浴衣を縫う」「お盆を迎える」「お手玉づくり」「おはぎ」「半纏」「掻い巻き」「こわめし」「漬物」「お正月の支度」など主婦が家族のために懸命に働く姿は、私たちに日々の営みの尊さを伝えてくれる。



出演：小泉和子(昭和の暮らし博物館長) 昭和8年東京都文京区小石川生まれ。家具・道具および建築を中心として生活史を研究する。工学博士。『昭和の暮らし博物館』『昭和台所なつかし図鑑』『室内と家具の歴史』『TRADITIONAL JAPANESE FURNITURE』『道具が語る生活史』など著書多数。元京都女子大学教授。家具道具室内史学会会長。

5.22(土)より2週間限定公開

連日10:00-11:30 公開期間中、大塚 敦監督の舞台挨拶あり!

【当日料金】一般1,800円/会員1,500円/大塚・シニア1,100円/高校生以下800円

横浜 R16長者町5丁目交差点沿
シネマリン
 045-341-3180
 www.cinamarine.co.jp